

【新型コロナウイルスワクチン接種事業について】

(質問)

市議案第50号令和3年度豊中市一般会計補正予算第20号のうち、新型コロナウイルスワクチン接種事業にかかる予算の繰越について伺います。繰越の理由は、18歳以上を対象とした追加接種(3回目接種)において、令和4年2月までに接種可能な対象者の年度内の接種完了が見込めないことと、5歳から11歳を対象とした1、2回目接種(小児接種)において、全対象者の年度内の接種に関する費用支出ができなくなったこととのことです。まずは、18歳以上を対象とした3回目の追加接種について、今年度内の接種対象人数及び接種率をどのように想定されていたのでしょうか。要するに、2回目の接種後、6か月を経過しなければ3回目の接種は行えない訳で、今年度内に3回目の接種が可能となる方(2回目の接種から6か月以上経過する方)の人数は何人くらいと想定され、それらの方のうちどれくらいの割合の方が3回目の接種をされると想定されていたのか教えて下さい。加えて、それらの想定に対して、実際の接種人数及び接種率はどれくらいだったのか、教えて下さい。同様に、5歳から11歳を対象とした小児接種の今年度内の接種人数及び接種率はどの様に想定され、実際の接種人数及び接種率はどれくらいなのか、教えて下さい。また、繰越額の内訳を見ると手数料及び予防接種委託料となっていますが、それぞれの額の算出方法を教えて下さい。手数料については、対象者数が多い18歳以上を対象とした追加接種よりも、対象者数の少ない5歳から11歳を対象とした小児接種の方が、額が大きくなっている理由についても教えて下さい。

<答弁>

令和3年度内の接種対象人数は、最終的に238,000人です。接種率は、対象者に対し100%接種で想定しております。実際の接種率は、2月末時点で、2回目接種者数に対する接種率は27.5%となっております。5歳から11歳の対象者は、令和3年度2月までに約26000人に対して100%を見込んでおりましたが、ワクチン供給が2月末になり接種開始が3月からになったため、0%の接種率となっております。

手数料、予防接種委託料の積算につきましては、令和3年度第13号補正予算額を基準として、18歳以上の対象者は、2月末時点の接種率に応じた額を除いた金額、5歳から11歳の対象者につきましては全額を繰越対象として積算しております。また、市外接種等にかかる手数料の繰越額につきましては、当初18歳以上の市外接種は、繰越対象の令和3年度より、令和4年度の計上を多く見込んでおり、5歳から11歳については、2回接種分を見込んでいることから、対象者数に見合った金額にはなっておりません。

(質問)

5歳から11歳を対象とした小児接種の接種率が低いことはある程度想定内だったかも知れませんが、今年度内に3回目の接種が可能となる方は、1、2回目の接種が優先的に行われた高齢者の割合が多いはずで、その方々の3回目の接種率が想定されていた接種率に比べて、低いことをどのように考えておられ、その要因をどのように分析されているのか、教えて下さい。また、1回目接種や2回目接種の際は、健康医療部長が「集団

免疫と いうことを考えるとできれば6割から7割の方には打って頂きたいと思っている」との見解を示されるなど、市としてある程度の目標接種率を示されていたように思いますが、3回目接種及び小児接種については、目標とする接種率は定めておられるのでしょうか。定めておられない場合、その理由も合わせて教えて下さい。

<答弁>

対象者全員が接種するものとして予算計上していますが、接種するか否かは対象者本人が判断するものであり、対象者全員が接種するとは限らないと考えております。接種するか否かは、対象者本人（5歳から11歳は保護者も含む）が判断するものと考えており、接種率の目標値は定めておりません。尚、1, 2 回目接種も目標接種率は定めておりません。

(質問)

新型コロナウイルスのワクチンが開発され、接種が開始された当初は、ワクチンがコロナとの戦いにおけるゲーム・チェンジャーになると期待され、連日、各種マスメディアがワクチンの接種率を報道し、本市でもワクチン接種率を公表されてきました。また、ワクチン接種を公的に証明するワクチン接種証明書、いわゆるワクチンパスポートが経済活動の再開に役立つと期待し、活用する飲食店や宿泊施設などもありました。しかし、時間の経過とともに新型コロナウイルスの変異による感染リスクや重症化リスクの変化、さらにウイルスの感染リスクや重症化リスクに関するエビデンスやデータの蓄積により、ワクチン接種の社会的意義や捉え方も変わってきているように感じています。そこで伺いますが、3回目接種や小児接種の接種率が低いことによる社会的課題や影響は何かあるのでしょうか。もしくは、ワクチンの接種率が上がらなくてもそれほど問題は無いとお考えなのか、市の見解をお聞かせ下さい。1回目や2回目接種の際には、「打倒コロナ! 打とうワクチン!」と銘打って、ワクチン接種を勧めてこられたと思いますが、3回目接種や小児接種については、どのようなスタンス、姿勢で臨まれているのかあわせて教えて下さい。加えて、接種率の目標値は定めていないとのことでしたが、もし、接種率が伸び悩んだ場合でも、今年度のプレミアム付き商品券（デジタル版）で実施したようなワクチンを接種した方へのインセンティブを付与するような施策や誘導策は必要ないという認識でよいのか、見解をお聞かせ下さい。

<答弁>

今後の社会的状況によっては、接種需要が高まることも考えられます。そのような場合にも、円滑に接種できる準備を整えておくことが必要です。接種するか否かは、対象者本人（5～11歳は保護者も含む）が判断するものです。判断するには、判断材料となる情報が必要です。情報を接種券同封資料やホームページ、SNS などの手段を用いて発信しています。接種は強制するものではなく、メリット、デメリットを対象者本人が判断するものなので、接種者へのインセンティブ付与は想定しておりません。（1, 2回目接種も、接種者へのインセンティブ付与していません。）